

市長から 市民のみなさんへ 30



山陽小野田市長 白井 博文

「対話の日」を毎月2回開催します

市民のみなさんと市役所との距離を縮め、お互いのよりよい関係をつくることを目的に、月1回、行っています「対話の日」ですが、昨年7月に福田公会堂で第1回目を開催してから、早いもので1年になろうとしています。都合12回、市内の各地におじゃまさせていただきましたが、どの会場もたくさんの方にお集まりいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。4ページから6月の南平原自治会館の様子を取材した記事を掲載していますので、まだ来場したことがない方にも「対話の日」の雰囲気を感じていただき、お近くで開催されるときはぜひ、足を運んでいただければと思います。

1年間、「対話の日」を続けてきましたが、今の率直な感想としては、まさに「言うは易く^{やす}行うは難^{かた}し」といったところでしょうか。お集まりいただいた方々からの“声”は、陳情・要望から市政に対する熱い想いまで、多岐に及ぶ内容でした。もちろん、その一つひとつに真剣に耳を傾けてきたつもりですが、すべての方々のご期待に添えることができず、結果的に、ご不満をお持ちになった方もいらしたにちがいありません。市民のみなさんの中に飛び込んでいくということは、非常に厳しい仕事であると実感しているところです。一方で、畳の上で車座になり、膝と膝とが触れ合う距離で、地域での身近な出来事や、市政に関する意見交換などを行い、多くの

方と交流を図ることができたことはたいへんうれしく思います。

9月からは月2回「対話の日」を開催することになります。約340ある市内の自治会のすべてにおじゃますることはできないとしても、回数を増やすことにより、一人でも多くの市民の方にお会いすることができるのではないかと考えてのことです。たとえば厳しいご意見をいただくことがあろうとも、市民の目線を忘れず、市民感覚を持ち続けるための貴重な場として、「対話の日」という市長としての“行脚”をこれからも続けていくつもりです。

近況をお話します

市議会も終わり、年度初めからの落ち着いた日々も一段落といきたいところですが、息つく暇も無く市長としての重要な用務、国・県への陳情要望に7月は奔走しました。国の19年度予算の概算要求締切りの8月を前に、高潮対策と湾岸道路の整備促進という早急に国の予算化をお願いしたい2つの事業について、関係省庁にその必要性を訴えてまわったところです。年々、国の予算自体が厳しくなっていますので、なかなか要望通りとはいかないでしょうが、特に高潮対策事業については一日も早く、流域にお住まいの方が安心して暮せるよう、これからも関係機関への働きかけは続けていきます。

今年はどうやら長梅雨のようで、なかなかギラギラとした真夏の太陽にお目にかかることができませんね。ムシムシした不快な日々が続いていますが、市民のみなさんも体調に十分留意され、夏を乗り切ってください。

「市長から市民のみなさんへ」についての
ご意見、ご感想をお寄せください。

〒756-8601 山陽小野田市広報広聴課
(FAX)83-9336 (E-mail) ki-kouhou@city.sanyo-onoda.lg.jp

市ホームページ「わたしの提案」を回答とともに公開しています



市ホームページ (<http://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/>) 上で、市へのご提言やご意見をおうかがいする「わたしの提案」の内容を、市からの回答とともに公開しています。また、そのやりとりに対して、市民の方がご意見を書き込むこともできるようになりました。(そのご意見も公開します。)

今後も双方向性のあるホームページの利点を活用し、市政への市民参加を更にすすめていきます。

【問い合わせ先】広報広聴課 ☎ 82-1133